

科目名	専攻ダンススキル 1							年度	2026
英語科目名	Major Dance Skills 1							学期	後期
学科・学年	ダンスパフォーマンス科 1年次	必/選	選	時間数	30	単位数	1	種別※	実習+実技
担当教員	Narumi		教員の実務経験	有	実務経験の職種	ダンスインストラクター			
【科目の目的】 ホワイトボード、プリントを用いた座学形式の講義及び音響機器、ダンススタジオを使用した実践の講義、指導方法のロールプレイング授業。また提携高校での指導、近隣小学校での指導のインターンを行い実践的な技術習得をします。									
【科目の概要】 この科目ではダンスインストラクターとしてのティーチングスキル(ストレッチ、フィジカルトレーニング、アイソレーション、リズム)を修得するとともに、話し方や表情の作り方など生徒との接し方などインストラクターの基本を学びます。									
【到達目標】 A. インストラクターを目指す動機・理想のインストラクター像を明確に相手に伝えられる B. 身体構造の仕組みについて理解しており、かつ興味を持って自分でも調べることができる。 C. HIPHOPクラスの基礎(ストレッチ・リズムトレーニング等) レッスンが1人で円滑に行える D. 発声、自己紹介、目指すインストラクター像を理解し、生徒の前で行動でき、尚且つ説得力がある E. 自分のクラスのジャンル・レベル・レッスン構成を具体的に作成ができ、且つ企業のニーズにもあわせられる									
【授業の注意点】 前回レッスンの動き・ステップ・振り付けを自主練習して実習に臨む事。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ループリック									
ループリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	インストラクターを目指す動機・理想のインストラクター像を明確に相手に伝えられる	インストラクターを目指す動機・理想のインストラクター像を伝えられるが、講師からの確認も必要	インストラクターを目指す動機・理想のインストラクター像をまとめられるが人前で話す事は緊張する	インストラクターを目指す動機・理想のインストラクター像はあるがうまくまとめられない	インストラクターを目指す動機・理想のインストラクター像が不明瞭である				
到達目標 B	身体構造の仕組みについて理解しており、かつ興味を持って自分でも調べることができる。	身体構造の仕組みについてある程度の理解ができ、自分でも調べる努力をしている	身体構造の仕組みへの興味がある	身体構造の仕組みについて興味があるが、理解度にばらつきがある	身体構造の仕組みについて興味関心が薄い				
到達目標 C	HIPHOPクラスの基礎(ストレッチ・リズムトレーニング等) レッスンが1人で円滑に行える	HIPHOPクラスの基礎(ストレッチ・リズムトレーニング等) レッスンが1人でできる	HIPHOPクラスの基礎(ストレッチ・リズムトレーニング等) レッスンが行えるが、言葉につまる	講師のサポートがあればHIPHOPクラスの基礎(ストレッチ・リズムトレーニング等) レッスンを行える	HIPHOPクラスの基礎(ストレッチ・リズムトレーニング等) レッスンが行えない				
到達目標 D	発声、自己紹介、目指すインストラクター像を理解し、生徒の前で行動でき、尚且つ説得力がある	発声、自己紹介、目指すインストラクター像を理解し、生徒の前で行動できる	発声、自己紹介、目指すインストラクター像を理解している	発声、自己紹介、目指すインストラクター像のいずれかの理解が不足しているが、補う努力が見られる	発声、自己紹介、目指すインストラクター像のいずれかの理解が不足している				
到達目標 E	自分のクラスのジャンル・レベル・レッスン構成を具体的に作成ができ、且つ企業のニーズにもあわせられる	自分のクラスのジャンル・レベル・レッスン構成を具体的に作成はでき、複数クラスに対応できる	自分のクラスのジャンル・レベル・レッスン構成を具体的に作成はでき、単一クラスに対応できる	自分のクラスのジャンル・レベル・レッスン構成の具体性・業界研究が必要	自分のクラスの計画を立てる事ができない				
【教科書】 なし									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 成果発表 50% 授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する 平常点 50% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		専攻ダンススキル1			年度	2026
英語表記		Major Dance Skills 1			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	自己理解	仕事及び自己への理解を深め、目標を明確化する	1 志望動機	ダンスインストラクターを目指す動機を理解	3	
			2 理想像の説明	自らが理想とするインストラクター像を理解する		
			3 自己紹介発表	他者の前で自己紹介を発表する		
2	業界理解	企業ごとの違い・特徴を理解する	1 企業種別	ダンススタジオ、それ以外の企業の違いを理解する	3	
			2 会員種別	各企業に集まる会員の年齢・性別など特徴を理解する		
			3 対象別指導法	教える対象によって気を付けるポイントを理解する		
3	職業理解	円滑な指導をする為に必要な知識・理解を深める	1 指導環境への理解	ダンススタジオ以外の指導環境への理解を深める	3	
			2 顧客への理解	年齢層・技術レベル等、顧客への理解を深める		
			3 講師へのニーズ	ダンス技術以外で求められる事への理解を深める		
4	HIPHOP レッスン導入方法	レッスン導入方法への理解を深める	1 導入～基礎レッスン	導入から基礎レッスンに入る流れを実践する	3	
			2 模擬レッスン	少人数グループでの模擬レッスンを行う		
			3 フィードバック	講師・他学生からのフィードバックからレッスンを再構成		
5	HIPHOP ストレッチ	HIPHOPのストレッチ方法、年齢別対応、流れを覚える	1 導入方法・概要	音楽の使用・声掛け等導入方法を理解する	3	
			2 流れを覚える	講師の見本からストレッチの流れを覚える		
			3 模擬レッスン	他学生の前でストレッチの模擬レッスンを行う		
6	HIPHOP 基礎レッスン	HIPHOPのアイソレーション、リズムトレーニングを覚える	1 流れを覚える1	講師の見本からアイソレーションの流れを覚える	3	
			2 流れを覚える2	講師の見本からリズムトレーニングの流れを覚える		
			3 模擬レッスン	他学生の前で基礎レッスンの模擬レッスンを行う		
7	身体構造	怪我を防止する為に身体構造を理解する	1 骨格・筋肉への理解1	骨格・筋肉などの名称を調べ体への理解を深める	3	
			2 骨格・筋肉への理解2	興味を持った骨格・筋肉を調べ、発表する		
			3 骨格・筋肉への理解3	ボール・バンドを使用したストレッチの実践		
8	身体理解	身体構造を理解した上でのストレッチ、マッサージを理解する	1 ストレッチ	骨格を理解したストレッチ方法を実践	3	
			2 マッサージ	骨格を理解したマッサージ方法を実践		
			3 年齢別対応	年齢に応じた骨格・柔軟性への対応を理解する		
9	JAZZ ストレッチ	JAZZのストレッチの流れを覚える	1 流れを覚える1	講師の見本から正しいストレッチの姿勢を理解する	3	
			2 流れを覚える2	講師の見本からストレッチの流れを理解する		
			3 模擬レッスン	他学生の前でストレッチの模擬レッスンを行う		
10	顧客対応方法	顧客の年齢、特徴別の声掛けや指導方法を理解する	1 顧客への声掛け1	身体の動かし方への声掛けを覚える	3	
			2 顧客への声掛け2	顧客のモチベーションアップの為の声掛けを覚える		
			3 顧客への声掛け3	目配り・声掛けを意識したレッスンの進め方を理解する		
11	HIPHOP 導入～ 基礎レッスン	HIPHOPの基礎まで小人数を相手に模擬レッスンが出来るようになる	1 グループ編成1	模擬レッスン順・レッスン内容を各自決定する	3	
			2 HH模擬 導入～基礎1	講師・生徒役に分かれ制限時間内でレッスンを行う		
			3 HH模擬 導入～基礎2	講師・生徒役に分かれ制限時間内でレッスンを行う		
12	HIPHOP 導入～ 基礎レッスン	HIPHOPの基礎まで小人数を相手に模擬レッスンが出来るようになる	1 フィードバック	講師よりフィードバック、レッスン内容修正	3	
			2 HH模擬 導入～基礎3	講師・生徒役に分かれ制限時間内でレッスンを行う		
			3 HH模擬 導入～基礎4	講師・生徒役に分かれ制限時間内でレッスンを行う		
13	JAZZ 導入～ ストレッチ	JAZZのストレッチまで小人数を相手に模擬レッスンが出来るようになる	1 グループ編成2	模擬レッスン順・レッスン内容を各自決定する	3	
			2 J模擬 導入～基礎1	講師・生徒役に分かれ制限時間内でレッスンを行う		
			3 J模擬 導入～基礎2	講師・生徒役に分かれ制限時間内でレッスンを行う		
14	JAZZ 導入～ ストレッチ	JAZZのストレッチまで小人数を相手に模擬レッスンが出来るようになる	1 フィードバック	講師よりフィードバック、レッスン内容修正	3	
			2 J模擬 導入～基礎3	講師・生徒役に分かれ制限時間内でレッスンを行う		
			3 J模擬 導入～基礎4	講師・生徒役に分かれ制限時間内でレッスンを行う		
15	次年度 目標立て	次年度のオーディション準備の骨組みを作る	1 進路目標	目指す業界の優先順位を確立する	3	
			2 オーディション対策1	自己PR・面接対策		
			3 オーディション対策2	模擬オーディションへの理解を深める		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等